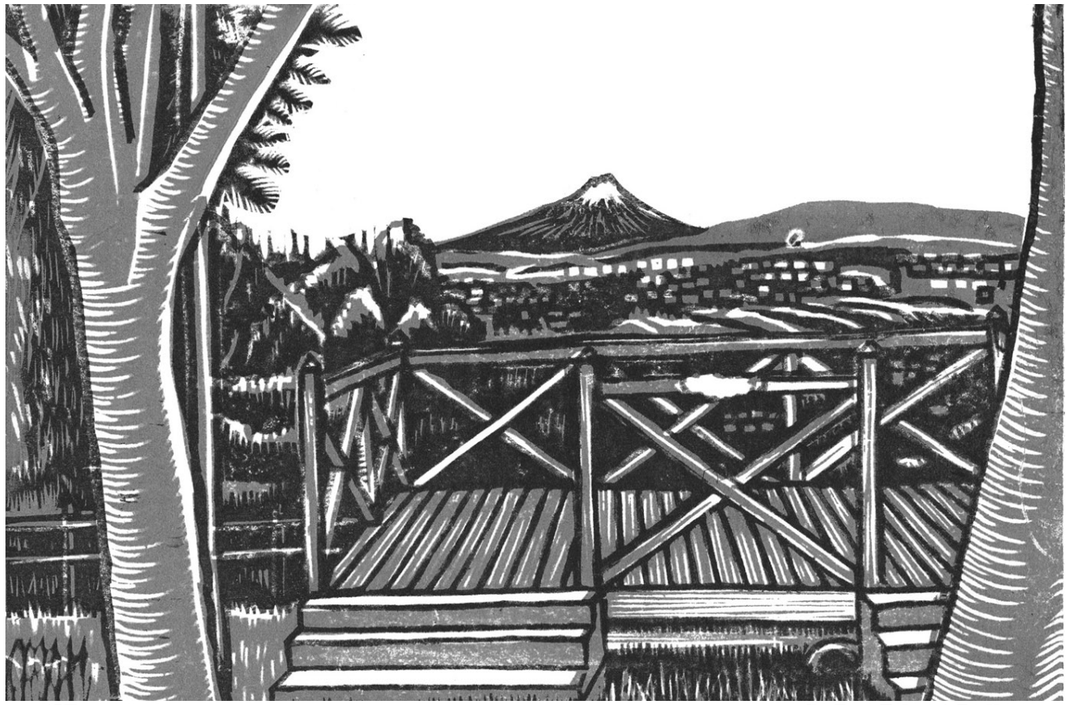
いたちがわらばん

通刊36号　鼬川・独川 / 川原番・瓦版　07 冬号



【版画　宗森英夫】　上郷市民の森展望台から見た富士山

故　郷（ふるさと）

「みなさん、こんにちは。二十四年ぶりに古里に帰ってきました。とてもうれしいです。心配をたくさんかけて、本当にすみませんでした。今、私は夢を見ているようです。人々の心、山、川、谷、みな温かく美しく見えます。空も、土地も、木も、私にささやく『お帰りなさい。頑張ってきたね』だから、私もうれしそうに『帰ってきました、ありがとう』と元気に話します。みなさん、本当にどうもありがとうございました。」（原文より）

憶えているだろうか、数年前、拉致被害者として、曽我ひとみさんが二十四年ぶりに生まれ育った佐渡へ帰郷した時、記者たちを前に、物悲しそうな顔で訥々（とつとつ）と読みあげたメモである。拉致という過酷な状況の中で信じるものを失い傷ついたこころを暖かく包み込みこんでくれたのは故郷の佐渡だった。故郷には優しくヒトを包み込む大きな力があるようだ。

富士がきれいに見えた冬のある日、いたち川を散策し、上郷市民の森の展望台にのぼり、わが街を眺めながら、ふと、私も自分の故郷について考えてみた。私にはここが故郷だと言えるところがない。生まれ育ったのは東京の片田舎で、そこが故郷だと言えなくもないが、絶えず激しい変化を宿命づけられてきた東京には、昔の想い出を受け入れる余裕はない。子どもの頃、魚や虫を追いかけた小川や林、三角ベース野球に興じた路地や石置き場は跡形もなく、いまはビルが乱立し、地下鉄が走っている。むしろ結婚を機に三十年前に移り住んだ横浜上郷地区の方が豊かな自然が保全されていて故郷のイメージに近い。いつでも帰ってこれるところ、心が安らぐところ、「故郷」は誰にも必要なのだ。いたち川沿いの豊かな自然は、いまや、私の故郷になっている。

（上郷森の会　柴田　猛）

切り取り線

この部分を切り取ってファイルにすると便利です

上郷小学校４年生の環境学習から

今年９月に、４年生３クラス１２０名は全員で、いたち川に関係した人を招いて、いたち川の歴史や自然環境などの授業を行いました。

毎日使っている水の話を聞いた後、いたち川などの「川」の水や雨水、池や噴水の水など子供たちが持ってきた身近な水の水質検査を行いました。

実際に水質を調べるキットを使うと、水の色がみるみるうちに変化してきました。その様子は大変興味深く、子どもたちも驚いていました。川と水道の水を比べ、水再生センターや浄水場の働きを再認識することができました。いたち川の水が予想していたよりもきれいであることを知り驚いていました。

さらに、栄区にはかつて水害が多くあったこと、いたち川を自然に近い形にして、生き物が住めるように変えてきたこと、植物を植え、憩いの場所にしてきたことなど、わかりやすく説明してもらう中で、所々で子どもたちから驚きの声が漏れていました。お話を聞いて子どもたちはいたち川に親しみを持ったようです。また、いたち川に生えている植物や生き物についても映像を使って分かりやすく教えてもらい、さらに興味を深めて行きました。

栄区では蛍を見ることができ、「蛍を見たことがある人は？」という問いかけに、クラスのほぼ全員が手を挙げていました。このことからも、子どもたちが日頃いたち川の水辺や市民の森の自然に親しんでいることが良く分かりました。蛍が住むには、相当きれいな水が必要になり、それが自分たちの周りにある環境の中にはなかなか存在していないことがよく分かり、環境を守っていかなくてはならないと感じました。

お話をして頂いた人が、理科を勉強することによって理解が深まったことなど、実体験を通して学んだ話も興味深いものでした。長いお話を一生懸命聞いていた子どもたちの姿勢や満足そうな表情からも、お話が大変興味をひきつけるものだったということが感じられました。

お話を聞いた後、子どもたちは , いたち川の植物、いたち川の生き物、いたち川の源流、みどりのダム、長倉物語、いたち川の小鳥、いたち川の流域、いたち川の蛍、いたち川の公園のグループ等に分かれ、それぞれ調べ始めました。自分たちでいたち川に行って調べてくるなど

積極的に取り組んでいました。これからも身近な自然に目を向け、いたち川を大切に思い、活動が広がっていけばよいと思っています。

〈　子どもたちの感想　〉

- 私は、川に上流、中流、下流があるなんて知りませんでした。六反田公園のいたち川に行ってCOD 検査をしたら「４」でした。ゴミもあまりなかったです。また機会があればもっと詳しく調べてみたいです。
- いたち川の距離が９ｋｍもあること、「いたち川」から「かしお川」、「さかい川」につながって太平洋に流れていくことも分かりました。今度いたち川に行って自分の目で観察していみたいです。ぼくはいたち川が大好きです。

（横浜市立上郷小学校教諭　前原　泉）

川からはじまるまちづくりシンポジウム

「もっと　もっともっと！いたち川」

２月２４日（土）午後１時～４時

栄区役所新館８・９号会議室

いたち川をもっともっと魅力的にするための、「行動のきっかけ」となるようなイベントです。

- 俳優・中本賢さんによる基調講演
- 本郷小学校児童による活動発表
- 他地区事例報告（鶴見川）
- 発表者と会場との意見交換
- ボランティアグループの活動紹介

などなど

問合せ：栄区役所企画調整係（８９４－８１６１）

発行年月 2006年12月　通刊36号

発行：独川ＯＴＡＳＵＫＥ隊（いたちがわおたすけたい）

ＯＴＡＳＵＫＥ隊事務局：栄区役所区政推進課企画調整係　〒247 - 0005　横浜市栄区桂町303 -19
TEL 045 - 894 - 8161　FAX 045 - 895 -2260

栄土木事務所下水道・公園係　〒247 - 0007　横浜市栄区小菅ヶ谷 1- 6 -1
TEL 045 - 895 - 14 11　FAX 045 - 895 -1421

（お便り・お問い合わせは こちらまで）

【いたち川水源探査ー３】

瀬上沢（右支川）の源流を訪ねる

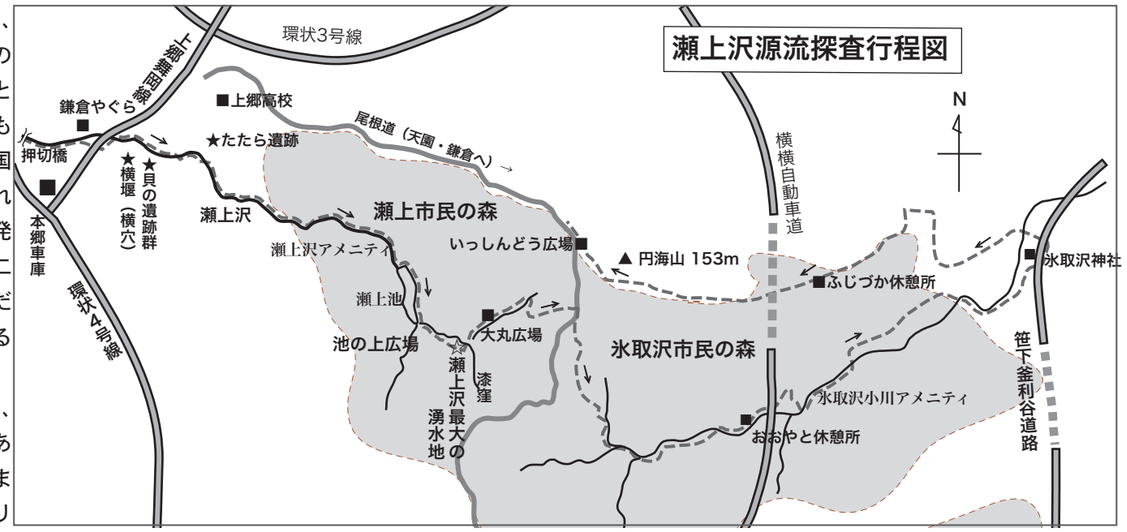
最後の水源探査は、瀬上池を水源とするいたち川右支川（別名猿田川）に流れ込む水源と、瀬上池に流れ込む水源をコースに選びました。当日は春まっただ中の４月８日（土）。あらかじめ探査が一段落したところで、お花見をする計画が組まれていたせいか、参加者の足取りは前２回より軽やかに見えました。

天候は、春特有の不安定な曇り空でしたが、出発は予定どおり午前１０時に。大いたち橋より小いたち橋を渡り右支川（猿田川）沿いを本郷石橋に向かって歩き、手前の水辺広場では、４年前に小学生によって植えられた「荘川桜」を観察しました。すでに花は散った後でしたが、咲いた形跡だけを確認できました。酒屋（水車屋）の手前の暗渠のところで、鎌倉街道の七曲方面からの湧水を確認し、その水量の大変多いことに驚きました。

石橋を過ぎると本川は暗渠化されていますが、新しくできる鎌倉街道を過ぎると暗渠はなくなり、川を覗き見ることが出来ます。この道は昔「竹後大通り」といい、金沢方面と横浜方面に行く街道で、左に「ふじやま公園」を見ながら進んで行くと「鎌倉道」の石標がありました。その先を鋭角に曲がった所に大橋（小さな橋で名前の由来は道路の形が大の字をしているところからきたと云われています）を渡って川に沿って行くと押切橋に到達しました。押切の名前の由来は、昔は右支川を上川、いたち川本川を下川と呼び、増水のたびに堤防を押し切っていた事から、この名前が付いたと云われています。その橋の少し下流に、この川から水を田圃に引く堰の痕跡を見ることが出来ました。その橋を渡った右側には、近隣の旧家のお墓があり、勤王の志士でこの地に寺子屋を開いた平尾桃岩斎信種の供養塔があるのですが、見学は次の機会にゆずることにしました。

少し行くと個人の所有するアーチ型の石橋があります。この橋は本川の白山神社に架かる大正時代にできた昇龍橋と同じ製作者によるものであるとのことです。神奈川中央交通本郷車庫の裏、東側の山裾に“鎌倉やぐら”が３基あり、内部の壁面には五輪塔や仏像が彫られています。また、上郷高校の下で発掘された「たたら遺跡」も市の博物館に保管されています。

上郷舞岡線の道路下を潜っていくと、江戸時代に造られたという「横堰」の遺跡があり、水を導く横穴を見ることができます。その周辺では世界的にも貴重な貝の化石群が発見され、横浜国立大学の研究者の手で調査が進められていることでも注目されています。発見された化石群は約１６０万年前の二枚貝のもので、表面に露出しているだけでも４000 個以上が確認されているそうです。



“瀬上沢小川アメニティ”に入ると、横浜を代表する谷戸と云われるだけあって、周辺の山は新緑と桜の花に囲まれ、水路に沿った崖からは湧水が滴り落ちてミズナやセリ、オランダカラシなどが見られ、緑も豊富で小学生が稲作体験をする「なかよしたんぼ」などもありました。

新鮮な空気を胸いっぱいに吸いながら瀬上池に到達しました。瀬上池は、江戸時代に日照りによる飢饉が続いたため溜池を造り、安定的に水を確保し農作物の増産に努めたといわれています。この日も池はたっぷりの水をたたえていました。

瀬上池の水は、池の上広場のある窪地からの水路と、漆窪からの水路が湖頭で流入しています。なかでも、漆窪の大丸広場の崖下から湧き出る水量はとても多く、きれいな水がこんこんと湧き出、湧水箇所は柵で囲われ入れないように保護されていますが、ここが瀬上沢の源流の中心地です。

気もそぞろに早足で瀬上池を通り、上の“大丸広場”でお花見の支度に取りかかり、まずは、お酒で乾杯。桜の花びらが舞うなかで、女性隊員のＫさん手作りのおつまみのおいしかったこと。山男のＯさんが慣れた手つきで作ってくれたホットウイスキーが腹にしみわたり、会話も弾んできた時、春雨がサーッと降り始め一同傘をさしての宴会となりました。１０分位で雨はやみ、辺り一面モヤに包まれ桜の花びらが散る中で、山の妖精が出てくるのではないかと思われる幻想的雰囲気の中で、すばらしいお花見をする事ができました。良く観察すると今降った雨が蒸発して水蒸気になっている現象で、“天”がいたち川の源流域であることを体感させてくれた様に思われました。

広場の山沿いに水路があり、小さなせせらぎに沿って、流れを見ながら登って行くと「いっしんどう広場」近くの尾根道に着きました。この尾根道を右（南）に行くと天園～鎌倉にいたる人気のハイキングコースですが、我々は尾根道を横切る格好で反対側の氷取沢市民の森に向かいました。氷取沢市民の森に入り、大岡川の水源の小川アメニティから“おおやと休憩所”でひと休み、アルコールも効いて、ややバテ気味ながらその下流にある氷取沢小川アメニティを散策、笹下釜利谷道路沿いの氷取沢神社に到着しました。バスで帰路に着く予定でしたが、健脚の隊員全員歩いて住宅地を横断し「ふじづか休憩所」を通り円海山で解散しました。

（や　ま）

瀬上池（左）
池の周囲にカエデが多く紅葉が楽しめる

瀬上沢アメニティ
初夏の時期、沢で遊ぶ子どもたち

いたち川にアライグマ出現

これまで、いたち川では河川敷にセイタカアワダチソウやアレチウリなどの外来種の侵入が激しいことを紹介してきました。また、ブラックバスやブルーギル等の魚類、ミシシッピーアカミミガメやカミツキガメ等の爬虫類が外来種であることを紹介してきました。

最近、栄区内にタイワンリスやハクビシン、アライグマ等の外来種の哺乳動物の出現も激しく、特に水辺を好むアライグマがいたち川周辺で見られるようになりました。街中のドブ川や水路に入りザリガニやサワガニ、タニシ、カエル等を捕食します。他にミミズ、昆虫類、落ちた柿の実、パン等も好む雑食性です。食物を器用に洗って食べる面白い習性があるためアライグマという名がつけられました。

夜行性であるため、昼間人目につくことは少なく、かろやかに歩き、足音をたてないので近くにいても気づかないことが多いようです。雨上がりの朝に地面に犬や猫と違った足跡があり、その存在に気付くことがあります。五本指ですが、中の三本が発達していて三本指のように見えます。犬や猫は第一指、人間でいう親指が地面に着かないため四本指のような足跡になるので気をつけて見れば区別がつきます。

木登りも得意で、子どもは驚くと木に登って難をのがれます。繁殖力が強く、春に三～七頭の子どもを生みます。寒さに強く、厳冬期でも活動は鈍りますが冬眠はしません。原産はカナダ南部からパナマかけての森林にすんでいます。ペットとして輸入されたものが、飼い主から逃げ出したり、捨てられたものが野生化しています。

（いもり）